

(一社)AAMT 第 3 回定時社員総会

日 時 2022 年 6 月 23 日 14:00～14:50
会 場 オンライン開催

議 事

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 出席会員の確認
4. 議案
 - 第 1 号議案 2021 年度事業報告
 - 第 2 号議案 2021 年度決算報告
 - 第 3 号議案 2022 年度事業計画（案）
 - 第 4 号議案 2022 年度収支予算（案）
 - 第 5 号議案 理事・監事人事(案)
 - その他・会員提案事項
5. 閉会の辞

2022 年 6 月 23 日

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会

第1号議案

2021 年度事業報告

2022 年 4 月 1 日

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会

会長 隅田 英一郎

一般社団法人として2年目にあたる2021年度は、機械翻訳の普及促進のために、コロナ禍でリアルな活動は制限されつつも、オンラインの活動を活発に行った。特に、機械翻訳の利活用が広がった場合に影響がある翻訳者、教師、学生、広く一般の人々に目配りし、講演会、年次大会、ガイドラインの作成活動等を実施した。

また、旧団体の設立から30周年にあたることから、記念事業を行った。

また、法人の体制を強化すべく、定款を補う規則制定や反社対応などを行った。

2023 年度に当法人主催で行う国際会議MTサミットについて開催地をマカオに確定し具体的な準備を開始した。

個々の活動については、以下に具体的に述べる。

1. イベント委員会

2021 年度から、年次大会実行委員の体制を4名から8名に強化し、イベント体制の拡充を行った。2021 年度の活動内容は下記のとおりである。

① 通常総会招待講演の運営

2021 年度から、通常総会時の招待講演の運営をイベント委員会で担うこととなった。第二回定時社員総会では「語学教育と MT」 機械翻訳の問題 - 第二言語教育の立場から - というタイトルで東京大学大学院 総合文化研究科・教養学部教授 トム・ガリー (Tom Gally) 氏をお招きした。

② AAMT 2021, Online の開催

2021 年度も、新型コロナ感染拡大防止の観点から、オンライン形式の年次大会 AAMT 2020, Online を12月に開催した。AAMT が創立30周年という節目を迎えたことを受けて、「創立30周年記念イベント」を前日に開催したため、併せて1.5日の開催となった。昨年同様、オンラインという場所を選ばない形でのイベントであったが、2020年の参加者256名を超え、291名の聴講者が参加した。また、「創立30周年記念イベント」の後に、Zoomのブレイクアウトルームを活用したオンラインの交流会も実施した。

2. AAMT/Japio 特許翻訳研究会

本研究会は、特許情報のデータベース化とその翻訳の機械化に先進的な役割を果たしている一般財団法人日本特許情報機構(Japio)からの委託をうけ、特許の機械翻訳の技術的な課題を把握し、次世代の特許翻訳のビジョンを明確にすることを目標に活動を行っている。特許翻訳における主要な技術課題、すなわち、(1)機械翻訳における専門用語の翻訳、(2)翻訳システムの評価手法、(3)特許文特有表現の翻訳、(4)その他特許翻訳に 応用可能な種々の機械翻訳関連技術、などをテーマとし、今年度は6回の研究会会合を行った。また昨年度から継続している特許機械翻訳の諸課題に関するサーベイ論文の執筆を進めた。

さらに、国際的な活動として特許や科学技術文献の翻訳を対象とするワークショップ(PSLT)を、2021年8月の機械翻訳サミットの併設ワークショップとして開催した。今回は時差のある中での小規模なオンライン開催となったが、20名程度の参加者を集めた。

3. 編集委員会

年2号の発行号数を目標としてAAMTジャーナル「機械翻訳」の記事を企画・編集し、電子ジャーナルとして発行する。ジャーナル記事の著作権としては Creative Commons Attribution ShareAlike 4.0 を基本とすることにより、投稿された記事が自由に流通することにより、著者とAAMTの利益が最大化することを目指す。また、「法人会員PR」として、機械翻訳に関して、法人会員からPR記事を受け付けた。

4. 広報委員会

1) ウェブサイト

機械翻訳に関する求人ページと、機械翻訳や関連するイベントを参照できるイベントカレンダーを新規作成した。一般社団法人としての組織強化のため、「暴力団等反社会的勢力ではないこと等に関する表明・確約書」を公開し、新規入会申し込み時に確約書にチェックを行うことを必須条件とした。また、「プライベートポリシー」を公開した。

2) SNS

Twitter、Facebookでの発信を続け、イベントや協会の紹介をおこなった。

3) 関連団体での活動

関連団体である日本翻訳連盟主催のJTF翻訳祭、言語処理学会の年次大会でスポンサードするなどの活動を行った。展示会ではAAMTブースを公開して来場者との交流を行った。

4) 30周年記念事業に関する活動

協会創立30周年を記念して、30年記念ロゴを作成し、WEBサイトに配置、ロゴとして1年間使用した。また、30周年特設サイトを作成し、以下のコンテンツを公開した。すなわ

ち、2021 年 5 月に他界された当協会の創立者である長尾先生から協会に送られた書、AAMT ジャーナル 75 号、MT 利用の法的 Q&A、印刷物でしか残っていなかった過去のジャーナル PDF である。また、30 周年の記念として年次大会に際してプレスリリースにて広報活動を行った。さらに、AAMT 会員、日本翻訳連盟会員、言語処理学会にて希望者に AAMT ジャーナル印刷版を配布して広報活動をおこなった。

5. 長尾賞委員会

2021 年度は、第 16 回 AAMT 長尾賞、第 8 回 AAMT 長尾賞学生奨励賞の宣伝、募集、選考の活動を行った。AAMT メーリングリストおよび言語処理学会メーリングリスト、JTF メーリングリストに推薦の案内を配信し、AAMT 長尾賞には 4 件の推薦(候補者 4 件)、AAMT 長尾賞学生奨励賞には 3 件の推薦(候補者 3 件)があった。6 名の選考委員から成る長尾賞選考委員会を設置し、2 件の AAMT 長尾賞を選定した。AAMT 長尾賞学生奨励賞については、4 名の選考委員から成る長尾賞学生奨励賞選考委員会を設置し、1 件の AAMT 長尾賞学生奨励賞を選定した。2021 年度は新型コロナウイルス感染状況の影響のため、AAMT 総会に伴って行われてきた授賞式を取りやめ、賞状および授与品の郵送をもって代えることになった。受賞の発表は AAMT 総会に伴って 6 月 23 日に行い、12 月 8 日に AAMT 年次大会において受賞者による講演会を実施した。

6. MT ガイドライン委員会

機械翻訳の訳出精度が上がったことで、それが広く一般的に活用されるようになった。他方で、その利用・活用方法、翻訳制作体制の整備不足により、誤訳の流出などが社会問題になっている。このような状況に鑑み、2021 年度は、「MT ガイドライン」委員会を発足させ、健全かつ正しい MT（および翻訳・通訳）の利用を推進すべくガイドラインの作成に取り組んだ。委員会は、理事と一般会員で構成される。9 月から定期的に会合を開き、ガイドラインの内容の議論と執筆を行ってきた。ガイドラインは、機械翻訳を理解するためにユーザーが翻訳について知っておくべきことを中心に解説する。機械翻訳と翻訳に関する原理と細則の説明と、MT 利用時のポイント（リスク）がひと目でわかるクイックガイドの冊子で構成される。日本語と英語版の両方で、2022 年 6 月頃に公開。

7. 法人強化委員会

個人情報保護に関する方針を示すための「プライバシーポリシー」の制定、および、京都府暴力団排除条例に従い「暴力団等反社会的勢力ではないこと等に関する表明・確約書」を作成しました。また、理事会規程を制定しました。

8. 国際化対応

AAMT を Asia-Pacific の組織として国際化していく方策の 1 つとして、2014 年以降、

日本の研究者が中心となって継続的に開催しているアジア翻訳ワークショップ (Workshop on Asian Translation; WAT) を AAMT の国際会議の母体とする検討を継続している。このために、WAT2018, 2019, 2020 に引き続き、ACL-IJCNLP 2021 (バンコク 2021 年 8 月) の併設ワークショップとして開催される WAT2021 をスポンサーとして支援した。WAT2021 では 18 の言語を対象とした 14 の shared task が行われ、世界中から 26 のチームが参加した。インド諸語を対象とした翻訳タスクの数が年々増えており、インドから多数の研究者の参加があった。他にも中国、韓国、シンガポール、タイ、ミャンマー、スイス、デンマークなどからの参加があり、国際化がより進んだワークショップとなった。

また、IAMT (International Association of Machine Translation) の 2 年に 1 度の国際会議、MT Summit 2023 を AAMT が世話することから、アジアの関係機関との相談・調整を行った結果、Macau 大学の Prof. Derek Wong にローカル・オーガナイザを決定した。MT Summit 2021 で開催地のアナウンスを行い、Prof. Wong と定期的にオンライン打合せ会議を実施した。

以上

御参考

協会活動報告
(2021 年 4 月～2022 年 3 月)

予算理事会

- 2022 年 3 月 16 日

第 2 回社員通常総会

- 2021 年 6 月 23 日

通常理事会/臨時理事会

- 2021 年 7 月 21 日 (2021 年度 第 1 回 通常理事会)
- 2021 年 9 月 15 日 (2021 年度 第 2 回 通常理事会)
- 2021 年 11 月 17 日 (2021 年度 第 3 回 通常理事会)
- 2022 年 1 月 19 日 (2021 年度 第 4 回通常理事会)
- 2022 年 2 月 3 日 (2021 年度 臨時理事会)
- 2022 年 3 月 16 日 (2021 年度 第 5 回 通常理事会)
- 2022 年 5 月 18 日 (2021 年度 第 6 回 通常理事会)

イベント委員会

新型コロナの感染拡大防止のため、リモートワークを推進した結果、イベント委員会の活動も Slack や Zoom を活用して実施した。

- 2021 年 5 月 28 日 (2021 年度 第 1 回)
 1. イベント委員会の概要説明
 2. 通常総会の開催について
 3. JTF 翻訳祭への登壇者候補選定について
 4. 年次大会について

■ 2021 年 7 月 12 日 (2021 年度 第 2 回)

1. イベント委員自己紹介および委員会活動の共有
2. イベント委員会の予算について
3. 年次大会について
4. 今後のコミュニケーション手段について

■ 2021 年 8 月 4 日 (2021 年度 第 3 回)

1. 年次大会タスク一覧およびマイルストーン
2. 公募セッションについて
3. 30 周年記念イベントの講演内容について
4. 年次大会の登壇者候補について
5. その他

■ 2021 年 10 月 6 日 (2021 年度 第 4 回)

1. 公募セッションについて
2. Web の進捗と公開について
3. 募集開始日と広報について
4. 展示について
5. 交流会について
6. 協賛・後援について
7. 企画と打ち合わせ・リハーサルについて
8. 30 周年記念講演の段取りについて
9. 当日運営について
10. その他

■ 2021 年 11 月 18 日 (2021 年度 第 5 回)

1. Zoom の利用形態について
2. Web の進捗と公開について
3. 協賛・後援について
4. 展示について
5. 公募について
6. 募集終了日と広報について
7. 交流会について
8. 長尾賞受賞者講演および年次大会当日の運営について
10. その他

AAMT 2021, Online ～機械翻訳最前線～

■ 2021 年 12 月 8 日【創立 30 周年記念イベント】

1. 13:30～13:45 開会挨拶
2. 13:45～15:45 記念講演
3. 16:00～18:00 長尾賞受賞者紹介および受賞者講演
4. 18:00～18:10 閉会挨拶
5. 18:15～19:15 オンライン交流会

■ 2021 年 12 月 9 日【年次大会】

1. 10:00～10:10 開会挨拶
2. 10:10～11:30 招待講演
3. 11:30～13:00 ランチタイムウェビナー
4. 13:00～15:00 公募セッション
5. 15:20～17:45 招待講演
6. 17:45～18:00 閉会挨拶

形態： Zoom によるオンライン開催

上記日程にて「AAMT 2021, Online ～機械翻訳最前線～」と、オンライン交流会を開催した。初日は創立 30 周年記念イベントとして、記念講演と長尾賞受賞者講演を実施した。二日目の年次大会本大会では、年次大会としては初めて協賛企業のランチタイムウェビナー枠を設けた。また、公募のセッションを復活させ、幅広い立場の会員から多種多様な発表が行われた。

初日の創立 30 周年の記念講演では、以下の方々にご講演をいただき、その後当協会会長隅田をモデレーターとして、AAMT の軌跡と今後の方向性についてパネルディスカッションを実施した。

① 「AAMT と MT の軌跡と未来」

黒橋禎夫氏（京都大学教授）

② 「翻訳業界と MT との過去、現在と未来」

安達久博氏（日本翻訳連盟代表理事・会長）

③ 「長尾先生の言語観と例からの機械翻訳」

辻井潤一氏（産業技術総合研究所フェロー・同人工知能研究センター研究センター長）

長尾賞受賞者講演では、第 8 回 AAMT 長尾賞学生奨励賞 1 件、第 16 回 AAMT 長尾賞 2 件の受賞者の講演があった。

① 第 16 回 AAMT 長尾賞

鈴木 潤氏（東北大学教授）

石渡祥之佑氏（Mantra 株式会社 代表取締役）

② 第 8 回 AAMT 長尾賞学生奨励賞

石渡祥之佑氏（東京大学）

二日目の年次大会では、以下の 6 名の招待講演のほか、協賛企業によるランチタイムウェビナー 5 件、公募セッション 6 件を実施した。

① 「令和 2 年度特許出願技術動向調査 -機械翻訳-」

成瀬博之氏（特許庁）

② 「機械翻訳サミット参加報告 - ユーザー・プロバイダトラックを中心に」

田中英輝氏（情報通信研究機構）

③ 「The 8th Workshop on Asian Translation (WAT2021) 報告」

中澤敏明氏（東京大学 客員研究員）

④ 「Red Hat が目指す翻訳の未来-全冊公開により見えてきた課題とソリューション」

燃脇 綾子氏（レッドハット株式会社）

⑤ 「MT 利用ガイドライン委員会の取り組みと今後の予定」

山田優氏（立教大学）

⑥ 「MT 提供および利用の法的課題について」

柿沼太一氏（STORIA 法律事務所）

創立 30 周年記念イベントの後に実施したオンライン交流会では、Zoom のブレイクアウトセッションを活用し、参加者との情報交換を行った。前回の反省を踏まえてルームホストを配置する実施形態であったこともあり、反応は好評であった。対面で懇親会が難しい中、昨年同様交流の場を設けることができた事は前進と受け止めたい。

また、前回同様商品紹介をできる会場を設けることができなかったため、オンラインで動画を配信するサイトを併設し、最新の技術・サービスの情報提供などが行われた。6 社がオンライン展示を活用した。

講演会参加者：291 名

AAMT/Japio 特許翻訳研究会

■ 2021年4月23日 (2021年度 第1回)

1. MTサミットワークショップ(PSLT 2021)について
2. サーベイ論文進捗報告
3. 2020年度研究成果の報告
4. 次回の開催について

■ 2021年6月25日 (2021年度 第2回)

1. 議事録の確認
2. MTサミットワークショップ(PSLT 2021)について
3. 2021年度研究計画の紹介
4. サーベイ論文進捗報告
5. 次回の開催について

■ 2021年8月20日 (2021年度 第3回)

1. 議事録の確認
2. MTサミットワークショップ(PSLT 2021)開催報告
3. サーベイ論文進捗報告
4. 発表 須藤 副委員長
5. 次回の開催について

■ 2021年9月24日 (2021年度 第4回)

1. 議事録の確認
2. 招待講演 NHK放送技術研究所 美野 秀弥 様
3. サーベイ論文進捗報告
4. 次回の開催について

■ 2021年12月10日 (2021年度 第5回)

1. 議事録の確認
2. サーベイ論文進捗報告
3. 年度報告書について
4. 次回の開催について

■ 2022年2月18日 (2021年度 第6回)

1. 議事録の確認
2. サーベイ論文進捗報告
3. 特許情報シンポジウムについて
4. 年度報告書について
5. 来年度研究会の開催について

編集委員会

- 編集委員会をオンラインで実施することにより、迅速な編集作業を実現している。
- No. 75（2021 年 12 月発行）AAMT 創立 30 周年特別記念号を発行した。
- No. 76（2022 年 6 月発行）を発行予定

広報委員会

- 2021 年 4 月度
 1. 30 周年記念ロゴを作成し、ウェブサイトを設置した。また、AAMT 用のオンラインバーチャル背景を作成した。
 2. 会長からの創立 30 年に寄せるページを公開した。
- 2021 年 5 月度
 1. 社員通常理事会に関するページ、招待講演に関するページを公開した。
- 2021 年 6 月度
 1. 理事の増員に伴い、組織ページを修正した。
 2. 5 月に他界された当協会の設立者、長尾真先生を偲ぶページを公開した。
- 2021 年 7 月度
 1. 求人ページ、イベントカレンダーページを作成し公開し、使用方法のマニュアルを作成した。
- 2021 年 9 月度
 1. 「暴力団等反社会的勢力ではないこと等に関する表明・確約書」ページ、「プライバシーポリシー」ページを公開し、新規入会申し込み時に「反社でないことの確約」にチェックを行う仕組みを設置した。
 2. WEB ページのセキュリティ保護のためログイン時のキャプチャ認証を導入した。
- 2021 年 11 月度
 1. 30 周年特設サイトを作成し、長尾先生の書を公開した。
 2. 年次大会に関する広報を行った。AAMT および関係団体でのメーリングリストでの周知、プレスリリースの発出を行った。
 3. 日本翻訳連盟の JTF 翻訳祭にて AAMT のオンラインブースを出展し、ブレイクアウトセッションに参加し、参加者と交流を行った。
- 2021 年 12 月度
 1. 過去の活動資産については「アーカイブ」というメニューを作成し、移動した。

■ 2022 年 2 月度

1. AAMT ジャーナルの印刷版を希望者に送付するため募集を行った。

■ 2022 年 3 月度

1. 関連団体である言語処理学会のスポンサーとして参加し、オンライン展示会および交流会に参加して参加者と交流を行った。
2. MT 利用に関する法的 Q&A を 30 周年特設サイトに公開した。

■ 2022 年 3 月度

1. AAMT ジャーナルの印刷版を希望者に送付した。

長尾賞委員会

■ 第 16 回 AAMT 長尾賞受賞式・記念講演会

- ・ **受賞者 1:** Team Tohoku-AIP-NTT at WMT-2020 (メンバー：清野 舜, 伊藤 拓海, 今野 颯人, 森下 睦, 鈴木 潤)

- ・ **受賞理由:**

機械翻訳の分野で権威の高い国際会議 WMT2020 のニュース記事翻訳タスクにおいて、参加した 4 言語対トラック (英独、独英、日英、英日) の人手評価において全て (同率を含む) 一位を獲得し、英独および独英のトラックでは自動評価でも一位を獲得した。さらに、言語学者による言語現象別の翻訳品質評価においても他のシステムを大幅に上回る最良の評価を得るなど、非常に高品質な機械翻訳システムを実現し、国際的に高く評価されている。これらの成果は、機械翻訳システムの実用化に向けた日本の研究開発力の国際的プレゼンス向上に大きく貢献し、また得られた多くの知見を研究開発者に共有する活動を通じて機械翻訳システムの開発と実用化の促進にも大きく貢献している。大学、研究機関、企業の産官学連携による優れた成果であり、まさに AAMT 長尾賞にふさわしい。

- ・ **受賞者 2:** Mantra 株式会社

- ・ **受賞理由:**

グローバル社会における異文化理解促進でも貢献の高い「漫画」の翻訳という 今までに無い新しい機械翻訳のテーマに挑戦し、機械翻訳の最新トピックであるマルチモーダル翻訳と文脈翻訳、さらに画像認識技術を融合して、実用的な漫画翻訳エンジン及び翻訳校正システムの事業化に挑戦している。これらの技術は、日本で出版されている漫画の海外展開、海賊版防止の観点から非常に高く期待されており、2020 年の創業以降、当該システムは国内外の出版社や翻訳会社、漫画配信事業会社に導入され、多くの漫画の海外展開に寄与している。また、漫画翻訳エンジン開発の過程で研究を重ねた要素技術を転用し、国内出版社と共同で「漫画で外国語学習サービス」を展開するなど、教育面にも新風を起こそうとしている。学術的にも萌芽的な段階にあるマルチモーダル・文脈翻訳を漫画翻訳という形で事業化

すると共に、研究成果及びデータセットを学会で広く公表するなど機械翻訳の研究にも積極的に貢献しており、まさに AAMT 長尾賞にふさわしい。

■ 第 8 回 AAMT 長尾賞学生奨励賞

- ・ **受賞者：** 東京大学大学院情報理工学系研究科 石渡 祥之佑さん（現 Mantra 株式会社）
- ・ **受賞対象論文：**

東京大学 喜連川優教授の指導のもとに、2018 年度東京大学の博士論文としてまとめられたものである。

「Translation and Description Methods for Multilingual Text Understanding」

- ・ **受賞理由：**

本論文は、人間の多言語テキスト理解における課題を言語の違いとドメインの違いから整理し、いくつかの新規性のある手法を提案した博士論文である。まず、機械翻訳のドメイン適用において重要な未知語の扱いについて、単語ベクトル空間の写像学習に基づく未知語処理を提案している。また、RNN ベースのニューラル翻訳に文節情報を取り込む手法を提案し、その有効性を示している。さらに、局所的・大局的な文脈に応じて語句の語義を生成する手法を提案している。いずれも挑戦的な課題に対する有用な手法であり、将来の機械翻訳の進展への寄与も大いに期待できる。以上の理由から本論文は長尾賞学生奨励賞にふさわしいものとする。

MT ガイドライン委員会

■ 2021 年 8 月度

1. 委員の募集を開始した。

■ 2021 年 9 月 1 日（2021 年度第 1 回）

1. ガイドラインの趣旨の共有
2. 運営方法の確認（委員会メンバー決定）
3. ガイドラインのスキームのブレインストーミング

■ 2021 年 11 月 2 日（2021 年度第 2 回）

1. 初回に提示したガイドラインの骨子の修正版（原案）の説明と議論

■ 2021 年 11 月 29 日（2021 年度第 3 回）

1. ガイドラインの枠組みと内容について
2. AAMT 年次大会での発表について
3. 日程確認

■ 2021 年 12 月 20 日（2021 年度第 4 回）

1. ガイドライン執筆内容について

■ 2022 年 1 月 20 日 (2021 年度第 5 回)

1. 柿沼先生ヒアリングガイドライン執筆の確認

■ 2022 年 2 月 15 日 (2021 年度第 6 回)

1. クイックガイドについて
2. リスクと点検
3. 執筆内容の見直し

■ 2022 年 3 月 7 日 (2021 年度第 7 回)

1. クイックガイドについて (リスク・点検) のまとめの共有
2. 上記の本体 (原理・パラメータ) との接続
3. サブミーティング実施の合意

2021 年度末 (2022 年 3 月 31 日) 現在の会員数 :

法人会員 : 62 法人 (2020 年 59 法人、入会 5 法人、退会 2 法人)

個人会員 : 103 名 (2020 年 99 名、入会 20 名、退会 16 名)

以上

第2号議案

2021年度決算報告

(1) 収支計算書

自：2021年4月 1日

至：2022年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	決算額	備考
収益の部			
1. 入会金収入	55,000	34,000	入会 法人3社、個人4名（入会金免除有）
2. 会費収入	5,205,000	6,079,000	法人112口、個人106名（うち学生会員10名）
3. イベント収入	480,000	101,000	AAMTオンライン非会員参加費
4. 協賛金収入	500,000	1,001,000	イベント協賛金収入
5. Japio受託収入	7,200,000	3,332,130	AAMT/Japio研究会受託収入
6. 雑収入	0	144	受取利息
当期収益合計(A)	13,440,000	10,547,274	
費用の部			
1. 会議活動費	122,000	118,800	総会会議費
2. 広報費	1,400,000	683,936	HP管理費、団体紹介動画作成費
3. 事務局管理費	2,750,000	1,922,768	事務委託費、事務局経費
4. 他団体交流費	910,000	540,000	JTF、言語処理学会会費、スポンサー費
5. イベント費	975,000	459,497	長尾賞記念品、AAMTオンライン開催経費
6. 編集委員会費	100,000	119,965	ジャーナル制作費（印刷、デザイン）
7. 租税公課	10,000	10,000	
8. 研究会費	6,800,000	3,811,413	AAMT/Japio研究会受託経費
9. 新規事業費	1,083,000	404,514	
10. 予備費	1,000,000	0	
11. 減価償却費	0	60720	ソフトウェア
当期費用合計(B)	15,150,000	8,131,613	
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	-1,710,000	2,415,661	
法人税住民税及び事業税(C)	80,000	80,000	
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	-1,790,000	2,335,661	
前期繰越正味財産額(D)	26,610,422	26,610,422	
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	24,820,422	28,946,083	

(2) 正味財産増減計算書

自：2021年4月 1日

至：2022年3月31日

(単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
年会費	6,079,000	
入会金	34,000	
2. 年次大会収益		
参加費	101,000	
協賛金	1,001,000	
3. 受託収益		
AAMT/Japio研究会受託収入	3,332,130	
4. その他収益		
受取利息	144	
経常収益 計		10,547,274
II 経常費用		
1. 事業費		
業務委託費	1,723,895	
諸謝金	919,900	
諸会費	94,979	
租税公課	10,000	
支払手数料	332,855	
事務委託費	729,784	
事業費 計		3,811,413
2. 管理費		
印刷費	8,876	
通信費	117,096	
消耗品費	3,634	
HP管理費	683,936	
広告宣伝費	711,000	
減価償却費	60,720	
諸会費	60,000	
租税公課	10,000	
支払手数料	527,517	
事務委託費	1,580,216	
ジャーナル制作費	119,965	
記念品（長尾賞）	45,200	
会場費	392,040	
管理費 計		4,320,200
経常費用 計		8,131,613
当期経常増減額		2,415,661
I 経常外収益		
経常外収益計		0
I 経常外費用		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		2,415,661
法人税、住民税及び事業税		80,000
当期正味財産増加額		2,335,661
前期繰越正味財産額		26,610,422
次期繰越正味財産額		28,946,083

(3) 貸 借 対 照 表

2022年3月31日

(単位：円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	69,179	
普通預金	27,157,019	
未収入金	3,332,130	
前払費用	46,245	
前払会費	60,000	
流動資産合計		30,664,573
2. 固定資産		
有形固定資産		
有形固定資産 計		0
無形固定資産		
ソフトウェア	404,800	
減価償却累計額	60,720	
	344,080	
無形固定資産 計		344,080
投資その他の資産		
長期前払費用	24,644	
投資その他の資産 計		24,644
固定資産合計		368,724
資産合計		31,033,297
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	1,914,236	
未払費用	67,305	
前受会費	5,000	
預り金	20,673	
未払法人税等	80,000	
流動負債合計		2,087,214
負債合計		2,087,214
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産額		26,610,422
当期正味財産増減額		2,335,661
正味財産合計		28,946,083
負債および正味財産合計		31,033,297

(4) 財 産 目 録

2022年3月31日

(単位：円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	69,179	
普通預金	27,157,019	
三菱東京UFJ銀行①一般	(10,649,239)	
三菱東京UFJ銀行②長尾賞	(722,740)	
ゆうちょ銀行	(1,016,360)	
AAMT/Japio		
PayPay銀行	(14,768,680)	
未収金	3,332,130	
Japio 受託収入	(3,332,130)	
前払費用	46,245	
前払会費	60,000	
流動資産合計	30,664,573	
1. 固定資産		
有形固定資産	0	
無形固定資産	344,080	
ソフトウェア	(344,080)	
投資その他の資産	24,644	
長期前払費用	(24,644)	
固定資産合計	368,724	
資産合計		31,033,297
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	1,914,236	
AAMT/Japio研究会業務委託費	(1,723,895)	
AAMT/Japio研究会謝金	(181,827)	
ジャーナル送料	(8,514)	
未払費用	67,305	
前受会費	5,000	
預り金（源泉税）	20,673	
未払法人税等	80,000	
流動負債合計	2,087,214	
負債合計		2,087,214
正味財産		28,946,083

参考資料1

2021年度決算報告 説明資料

自：2021年4月 1日

至：2022年3月31日

(単位：円)

科目	決算額	内訳		備考
収益の部				
1. 入会金収入	34,000	個人会員入会金	4,000	4名(1000*4)
		法人会員入会金	30,000	3社(10000*3)
2. 会費収入	6,079,000	個人会費	480,000	96名(5000*96)
		学生会費	10,000	10名(1000*10)
		法人会費	5,589,000	62法人112口分
				振込手数料分入金不足有
3. イベント収入	101,000	総会講演会 非会員	16,000	16名(1000*16)
		AAMT2021参加費 非会員	85,000	17名(5000*17)
4. 協賛金収入	1,001,000	AAMT2021協賛金	770,000	ゴールド(会員)7社(110,000*7)
			165,000	ゴールド(非会員)1社(165,000*1)
			66,000	シルバー(会員)2社(33,000*2)
5. 受託収入	3,332,130	Japio	3,332,130	(財)日本特許情報機構
6. 雑収入	144		144	受取利息
当期収益合計(A)	10,547,274		10,547,274	

科目	決算額	内訳		備考
費用の部				
1. 会議活動費	118,800	総会会場費	118,800	遠隔会議開催費
2. 広報費	683,936	WEBサイト HP管理料	683,936	HP更新料、レンタルサーバー等
3. 事務局管理費	1,922,768	事務経費 通信費	105,367	郵便代、プラストメール、Zoom利用料等
		事務経費 消耗品費	610	事務用品
		事務経費 支払手数料	227,839	税務申告、役員登記、振込手数料
		事務経費 印刷費	8,736	資料、宛名ラベル等印刷
		事務局運営費	1,580,216	公益総研事務委託費
4. 他団体交流費	540,000	日本翻訳連盟	60,000	年会費
			165,000	翻訳祭スポンサー費
		言語処理学会	315,000	スポンサー費
5. イベント費	459,497	長尾賞	45,200	記念品
			4,389	支払手数料
			3,024	消耗品等
		総会講演会	22,274	講師謝礼
		AAMT2021	273,240	会場費
			111,370	講師謝礼10名
6. 編集委員会費	119,965	AAMTジャーナル	119,965	制作費（印刷、デザイン）
7. 租税公課	10,000		10,000	役員登記収入印紙代
8. Japio受託事業費	3,811,413	受託事業費	3,081,629	AAMT/Japio研究会経費
		事務委託費	729,784	公益総研事務分
9. 新規事業費	404,514	JTF-WEBジャーナル広告	165,000	
		MTガイドライン作成	165,000	弁護士法人STORIA
		30周年記念事業	33,000	プレスリリース
			33,000	ロゴ、イメージ作成
			8,514	郵送料
10. 減価償却費	60,720	無形固定資産	60,720	ソフトウェア（2021年7月～5年償却）
当期費用合計(B)	8,131,613			
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	2,415,661			
法人税住民税及び事業税(C)	80,000			
当期正味財産増減額(A)-(B)-○	2,335,661			
前期繰越正味財産額(D)	26,610,422			
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	28,946,083			

監 査 報 告 書

私たちは一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会の 2021 年度の収支計算書および正味財産増減計書、2022 年 3 月末現在の貸借対照表および財産目録について監査を行いました結果、本協会の 2021 年度の決算諸表が適法かつ公平に表示されているものと認めます。

2022 年 5 月 13 日

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会

監事

濱口 宗 武 

監事

古谷 祐一 

第3号議案

2022年度 一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会 事業計画（案）

2022年4月1日

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会

会長 隅田 英一郎

2022年度の取り組み概要

MTのポストエディットの規格であるISO18587は当法人のMTの普及促進活動と強く関連することから、日本における同規格の普及に役立つ活動を開始する。

昨年度取りまとめたMTガイドラインを公開し、啓蒙活動を強化していく。必要に応じてガイドラインの改訂・拡張等を行う。

2023年度開催の国際会議MTサミットについてリアル開催も視野に関連国際会議の動向を調査しつつ確実に準備を進める。

コロナ禍の中でも発展を維持するためにWEBやリモートの利活用をさらに進める。

1. イベント委員会

当委員会は、今年度も主にアジア太平洋地区において機械翻訳の技術開発、利用促進のために必要な情報の収集および発信の場として、イベントを企画運営する。具体的には、下期（2021年度は12月/AAMT 2021, Online）に開催している年次大会をその場として位置づけ、業界が潜在的に抱えている課題の共有や情報不足を解消する一助になることを目的とする。年次大会はAAMTの国際化推進を下支えできるような中核のイベントにすべく、発展的、段階的に拡大してゆくことを計画している。また、前事業年度から、通常総会時に実施する招待講演の運営も担う。

2022年度の活動計画は下記のとおりである。

通常総会招待講演の運営

昨年度同様、招待講演の当日運営を担う。

AAMT 2022, Tokyo/(またはOnline)の開催

今年度も、年次大会を開催し、AAMTの活動を協会内外に発信する。実施の形態については、リアルイベントの実施を想定しつつ、新型コロナウイルスの感染状況に応じて柔軟にオンラインイベントに切り替える。

このイベントでは機械翻訳の活用事例、業界トレンド、技術革新、その他 MT に関連する技術領域を対象に、最新の情報をタイムリーに発信する場として位置付ける。会員のみならず非会員の参加者を促すことで、当協会の露出を増やし、会員増につなげることで、業界団体としての発展につなげたい。

2. AAMT/Japio 特許翻訳研究会

知財のグローバルな流通が加速するにつれ、特許業務の多言語化が進展し、その翻訳の需要も急速に高まっている。このような状況の中で、本研究会は、特許情報のデータベース化とその翻訳の機械化に先進的な役割を果たしている一般財団法人日本特許情報機構(Japio)からの委託をうけ、特許の機械翻訳の技術的な課題を把握し、次世代の特許翻訳のビジョンを明確にすることを目標に引き続き活動を行う。

本研究会は、特許機械翻訳の改善に繋がる諸課題を対象とした幅広い研究テーマを扱い、委員による研究発表や外部講師を招いての講演を行う会合を年 5～6 回開催する。研究の成果は報告書として公開する。

特に 2022 年度は、前年度まで調査執筆を行ってきたサーベイ論文の公開を目指すとともに、それを活かした今後の研究の方向性の提案に繋げる。また、一昨年に引き続き、情報交換と議論の場を提供するため、第 7 回特許情報シンポジウムの開催を計画している。

3. 編集委員会

年 2 号の発行号数を目標として AAMT ジャーナル「機械翻訳」の記事を企画・編集し、電子ジャーナルとして発行する。ジャーナル記事の著作権としては Creative Commons Attribution ShareAlike 4.0 を基本とすることにより、投稿された記事が自由に流通することにより、著者と AAMT の利益が最大化することを目指す。また、「法人会員 PR」として、機械翻訳に関して、法人会員から PR 記事を受け付ける。

4. 広報委員会

1) ウェブサイト

広報を本協会における重要な情報発信手段と位置付け、機械翻訳に関する情報を迅速に集約し発信できるようにする。

AAMT ジャーナルの早期公開を行い、会員特典の価値を高める。

5) SNS

Twitter、Facebook での発信を続け、速報性という特徴を生かして、(特に協会非会員に向けて) 協会のイベント案内などの情報提供や会員・一般との丁寧なコミュニケーションの

手段として利用する。

6) その他広報活動

関連イベントでの広報、WEB マーケティングなどを行い AAMT という団体の認知度向上のための施策を行う。プレスリリースの発出は継続する。

6 長尾賞委員会

2022 年度は、2021 年度までと同様に、AAMT 長尾賞、AAMT 長尾賞学生奨励賞の宣伝、募集、選考の活動を行う。また、それらの活動に加えて、AAMT 長尾賞、AAMT 長尾賞学生奨励賞の存在を広めるために、より効果的な宣伝の方法について検討を行う。

7 MT ガイドライン委員会

2022 年度は、昨年度に作成した MT ガイドラインの普及とその内容の啓蒙を目指す。具体的には、MT リテラシー説明会を開催するなどして社会に広く浸透させる。また、このような活動を通して、ユーザーから得られるフィードバックを基に、必要に応じてガイドラインを修正し改訂版の作成を行う。

8 法人強化委員会

一般社団法人として、組織運営が円滑に進められるように規程等の拡充を検討する。

9 国際化対応

AAMT を Asia-Pacific の組織として国際化していく方策の 1 つとして、2014 年以降、日本の研究者が中心となって継続的に開催しているアジア翻訳ワークショップ (Workshop on Asian Translation; WAT) を AAMT の国際会議の母体とする検討を継続している。このために、WAT2018, 2019, 2020, 2021 に引き続き COLING2022 (韓国慶州 2022 年 10 月) の併設ワークショップとして開催される WAT2022 をスポンサーとして支援する。

また、AAMT が幹事組織となり、MT Summit 2023 を 2023 年 9 月に Macau で開催する。コロナ禍で先行きが見通せない状況ではあるが、2022 年 7 月には開催形態をほぼ決定して各 committee の活動を開始し、9 月には CFP 等のアナウンスを行う予定である。

10 学生学会参加サポート事業

COVID-19 の影響により国際会議のオンライン開催・ハイブリッド開催が続いているが、出張を伴わない形で比較的安価に参加ができるようになったという利点も生まれたと言える。そこで、2022 年度は試験的な試みとして IAMT 関連の会議である EAMT, AMTA にオンラインでの聴講参加を希望する学生を若干名募り、会議参加費を AAMT から補助する施策

の実施を予定している。補助を受けて参加した学生には AAMT ジャーナルへの参加レポートの寄稿を依頼し、学生への支援と同時に会員向けのコンテンツの充実を図る。

9 ISO 18587 供給者適合宣言支援事業

機械翻訳の精度が継続的に向上している中、産業界では機械翻訳出力を人手で修正するポストエディット業務が普及している。ポストエディット業務の標準化を目的として、2017 年に ISO 18587:2017「Translation services – Post-editing of machine translation output – Requirements」が発行されており、近年、グローバル企業のサプライヤー評価や入札にも、認証取得が求められるケースが増えてきている。

一方、日本国内には認証取得の支援機関が存在しないため、国際標準規格へ準拠する機会が制限されている。そこで、当協会において ISO/IEC 17050-1:2004(JIS Q 17050)に基づく ISO 18587:2017 の供給者適合宣言を支援するガイドラインを策定し、会員に提供することで、世界市場において競争力を維持するための支援を行い、結果としてポストエディット延いては機械翻訳の普及を促進できるようにする。

第4号議案

2022年度収支予算（案）

自：2022年4月1日

至：2023年3月31日

単位（円）

科目	予算額	概要
収益の部		
1.入会金収入	55,000	新規入会 法人10口、個人15名を想定
2.年会費収入	6,053,000	法人111口、個人111名（うち学生13名）を想定
3.イベント収入	2,044,000	総会講演会（非会員）、年次大会参加費、懇親会費
4.協賛金収入	880,000	イベント協賛金
5.Japio受託収入	7,000,000	AAMT/Japio研究会受託収入
6.雑収入	0	
当期収益合計(A)	16,032,000	
費用の部		
1.会議活動費	218,800	総会・理事会など
2.広報費	918,000	AAMTホームページ管理費、広報活動費
3.事務局管理費	1,690,000	事務委託費、事務局経費
4.他団体交流費	815,000	JTF、言語処理学会の会費、スポンサー費等
5.イベント費	1,895,000	総会、年次大会開催経費
6.編集委員会費	120,000	ジャーナル制作費
7.租税公課	10,000	
8.Japio受託事業費	7,660,000	AAMT/Japio研究会経費
9.各種事業費	950,000	
10.予備費	1,000,000	
当期費用合計(B)	15,276,800	
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	755,200	
法人税住民税及び事業税(C)	80,000	
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	675,200	
前期繰越正味財産額(D)	28,946,083	
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	29,621,283	

参考資料2

2022年度予算案 収益の部 詳細

自：2022年4月1日

至：2023年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	内訳				備考
			人(口)数	単価	金額	
1.入会金収入	55,000	法人会員	5	10,000	50,000	
		個人会員	5	1,000	5,000	
		学生会員	0	1,000	0	
2.年会費収入	6,053,000	法人会員	111	50,000	5,550,000	
		個人会員	98	5,000	490,000	
		学生会員	13	1,000	13,000	
3.イベント収入	2,044,000	総会講演会 会員	173	-	-	
		総会講演会 非会員	20	1,000	20,000	
		総会懇親会 会員		-	-	
		総会懇親会 非会員		-	-	
		年次大会 会員	120	5,500	660,000	
		年次大会 非会員	60	11,000	660,000	
		年次大会 展示参加費 会員	10	-	-	
		年次大会 展示参加費 非会員	2	55,000	110,000	
		AAMT年次大会懇親会	90	6,600	594,000	
4.協賛金収入	880,000	AAMT年次大会協賛金	8	110,000	880,000	
5.受託収入	7,000,000	AAMT/Japio研究会	1	7,000,000	7,000,000	AAMT/Japio研究会受託収入
6.雑収入	0			-	-	受取利息
収益合計	16,032,000					

2022年度予算案 費用の部 詳細

自：2022年4月1日

至：2023年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	内訳			備考
1.会議活動費	218,800	総会・理事会・監事会	会場費	118,800	
		福利厚生費		100,000	
2.広報費	918,000	ウェブサイト	HP管理費	620,000	ホームページ維持管理費
		イベントプレスリリース		33,000	
		印刷費	資料	100,000	
		広告費	バナー広告	165,000	JTジャーナルFバナー広告
3.事務局管理費	1,690,000	事務経費	通信費	100,000	郵便、メール配信、Zoom、サーバー等
			消耗品費	10,000	
			支払手数料	250,000	振込手数料、税務申告、役員登記手数料
			印刷費	10,000	
		事務局運営費	備品費	10,000	
			事務委託費	1,300,000	公益総研協
		雑費		10,000	
4.他団体交流費	815,000	日本翻訳連盟	年会費	60,000	JTF年会費
			スポンサー費	55,000	翻訳祭スポンサー費
		言語処理学会	年会費	50,000	賛助会員費1口
			スポンサー費	150,000	年次大会スポンサー
		Workshop on Asian Translation	補助金	500,000	翻訳評価費用補助
5.イベント費	1,895,000	長尾賞	記念品	50,000	
			支払手数料	5,000	
			雑費	5,000	
		総会講演会	会場・会議室	0	
			機器レンタル	0	
			記録集謝金	0	
			講師謝礼	20,000	
			印刷費	0	
			懇親会費	0	
			雑費	0	
		AAMT年次大会	会場・会議室	880,000	会場代
			機器レンタル	0	
			記録集謝金	0	
			講師謝礼	220,000	
			印刷費	0	
			懇親会費	495,000	
			雑費	220,000	
6.編集委員会費	120,000	AAMTジャーナル	制作費	120,000	
7.租税公課	10,000			10,000	収入印紙
8.Japio受託経費	7,660,000	AAMT/Japio	研究会経費	6,650,000	AAMT/JAPIO研究会受託経費
			AAMT負担経費	1,010,000	公益総研へ委託費用分
9.各種事業費	950,000	PEガイドライン		500,000	
		ISO 18587適合証明支援	WG謝金	330,000	5人×6回×10,000
		IAMT関連学生参加補助		120,000	2学会、各5名
10.予備費	1,000,000	予備費		1,500,000	
総額	15,276,800				

※ 1,000,000 MTSummit2023

仮払発生対応

第5号議案： 理事・監事人事(案)

以下の方々を2022年度～2023年度の役員として提案いたします。

・理事候補

安達	久博	(株式会社サン・フレア)
石岡	映子	(株式会社アスカコーポレーション)
石川	弘美	(株式会社十印)
出内	将夫	(富士通株式会社)
岩下	雅寛	(凸版印刷株式会社)
内山	将夫	(国立研究開発法人情報通信研究機構)
園尾	聡	(東芝デジタルソリューションズ株式会社)
黒橋	禎夫	(京都大学)
後藤	功雄	(日本放送協会)
小林	明	(一般財団法人日本特許情報機構)
菅谷	史昭	(マインドワード株式会社)
須藤	克仁	(奈良先端科学技術大学院大学)
隅田	英一郎	(国立研究開発法人情報通信研究機構)
田中	英輝	(国立研究開発法人情報通信研究機構)
中澤	敏明	(東京大学)
永田	昌明	(日本電信電話株式会社)
長瀬	友樹	(国立情報学研究所)
二宮	崇	(愛媛大学)
森口	功造	(株式会社川村インターナショナル)
山田	優	(立教大学)

監事

浜口	宗武	(株式会社知財コーポレーション)
古谷	祐一	(株式会社ロゼッタ)